

# Meet in Mito

ミートインミト

～水戸で輝く人に会いにいく～

まちを形づくるのは、風景だけではなく、そこに暮らす人の力です。この連載では、市内で活躍する方の姿をとおして、地域の魅力と未来へのヒントを探ります。

問合せ▶みとの魅力発信課(☎232-9107)

## 07 保和苑を見守り、未来へつなぐ 保和苑周辺史跡観光連絡協議会 会長 川又 一郎 さん

川又さんがあじさいの整備に関わるようになったきっかけは、平成17年に発足した「あじさい育成委員会」への入会でした。あじさいの剪定や施肥、植込みを行うなかで、苗木の成長や咲き誇る花の美しさに魅了されていったといいます。

協議会の会長に就任した川又さんは、地域の方とともに現場で汗を流してあじさいの管理を行っています。その地道な

初夏に約6000株のあじさいが咲き誇る名所「保和苑」。前号の特集に続き、この美しい景観を守り、発展させてきた「保和苑周辺史跡観光連絡協議会」会長の川又一郎さんに、お話を伺いました。

### あじさいと歩んだ日々

活動が実を結び、令和2年に保和苑は「水戸市地域文化財」に認定されました。

### 懐かしいまちの記憶

川又さんは、保和苑周辺の昔の様子についても語ります。

現在は静かな憩いの場である保和苑周辺ですが、かつては「谷中」と呼ばれ、水戸と那珂湊を結ぶ路面電車の「谷中駅」が存在したにぎやかな場所でした。「当時、谷中駅には駅舎があり、二十三夜尊(桂願寺)の縁日には駅員が駐在するほど混雑していました。夏には大洗海岸へ向かう海水浴客も多く利用していましたね」とまちの記憶を振り返ります。



めて100本を超えるモミジがあり、なかでも本堂裏にあるモミジは、一段と美しい姿を見せてくれて、心が安らぎます」と教えてくれました。



### 水戸の宝を次の世代へ

こうした歴史と自然が残る保和苑周辺は「水戸のロマンチックゾーン」と呼ばれています。

川又さんは、このエリアを多くの人に知ってもらい、訪れてもらいたいと考え、パンフレットの設置やスタンブラーの実施、メディアでのPRなども精力的に行っていました。「実際にこのエリアを訪れた方からは『近くに住んでいます、歩いてみたら緑の中に史跡が点在している素晴らしかった』『保和苑は、このあじさい園よりもよかった』といった声をいただきました。このような言葉が何よりうれしく、次の発展への原動力になっています」と笑顔で話します。

「たくさんの方が関わり、つくり上げたこの景色と歴史は、水戸の大切な宝です」と語る川又さん。近年では、地域を盛り上げるため、学生たちと空き家を再生する活動にも取り組むなど、世代を超えて地域の魅力をつないでいます。

水戸のロマンチックゾーンガイドマップはこちら→

